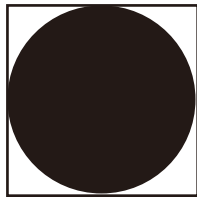


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 149

2017. 2

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

学習指導要領改訂への二つの着眼点

公益社団法人 日本美術教育連合理事・研究局長 山口喜雄

学習指導要領改訂が、2017（平成29年）年3月末までに行われるとの伝聞を得ている。

新制度の公示・施行は、従前にはない学校教育課題の提示とそれへの対応に連動する。新制度や新学校教育課題に対して、主体的な美術教育の実践者・研究者を自覚するのであるなら、自分らしい着眼点をもちたいと考える。小中学校と教員養成学部あわせて43年間の美術教育実践・研究を経て二つの着眼点に気づいた。一つは自然科学、もう一つは社会科学からの着眼点である。

前者の好例は、「芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する」と2008年に提示された《言語活動》である。1987年に拙論「J・T・ボナー的観点からの考察」（美術教育学9号）に援用した『動物は文化をもつか』にボナー（John・T・Bonner, 1920-）は、文化は遺伝でなく行動的に伝達されると記していた。言語活動は、生物の進化から俯瞰すると遺伝を超越する。「書く」集積としての記録は、時代を越えた文化の伝達をも可能にする。ボナーがいう「蓄積された知識」は、美術教育文化における表現や研究の集約としての作品や論文等にあたると考えられる。また、言語と造形言語を駆使できる豊かな教授能力の形成が、量と質の高い円滑な情報伝達に資する。翻って、佐伯胖氏の講演を二附属小学校勤務で拝聴した。氏は2004年著書『「わかり方」の探求』のなかで、「『話す』とは『気くばりする』ということである」と明晰に述べた。図画工作・美術の授業で話す際の要点は、学習者一人一人への配慮、ことに不得意と感じている児童・生徒への配慮であろう。「配慮」を進化過程で捉え直すと、他の動物には見られない高度な文化伝達の営為であることが見えてくる。

後者は現代美術教育のキーワード、〈人間形成〉に関係している。2008年改訂中学校学習指導要領解説美術編の冒頭に、今改訂では「生徒一人一人の資質や能力の向上と、自己実現を図ることを一層重視した」とある。その法的根拠は教育基本法第2条2項「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」であり、憲法第13条「すべて国民は、個人として尊重される」にある。世界史的始原を辿れば、1789年のフランス革命、1689年英国の権利章典がある。その英国リーズ大学で、2013年にH・リード卿子息ベン・リード氏に面談取材を行い、相反する個の形成と社会的調和の教育の重要性を唱えた『芸術による教育』の精神を研究だけでなく、家庭生活でも体現していたことを知った（日本美術教育研究論集2014）。つまり、人間形成としての美術教育を授業実践に留めず、《個人の尊厳》を社会化させることこそ求められている。なお、2016年10月にベン・リード氏は享年72歳で永逝された（インターネット検索：Benedict Read obituary）。合掌

新制度が配慮、個人の尊厳をどう示すか、それをどう実践するかが問われている現今である。

■第7回定時総会及び講演会のお知らせ■

公益社団法人日本美術教育連合平成29年度通常総会を平成29年4月23日（日）に開催いたします。会場は聖心女子大学宮代ホールで、総会は13：30～14：30予定です。15：00～16：30に文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の岡田京子・東良雅人両先生による記念講演を予定しています。講演会は無料、どなたでも参加できます。ぜひご出席ください。

50周年記念2016年度の二大業務の報告

理事・研究局長 山口 喜 雄（前宇都宮大学）

1967（昭和42）年11月24日・25日の第1回日本美術教育研究発表会から50周年を迎えた2016年度も企画・運営・総括、『日本美術教育研究論集』の企画・編集・発行という二大業務を運営しています。前者は結城孝雄理事の尽力により東京家政大学板橋キャンパス16号館にて、全日程を役員の協働で実施しました。さらに、50周年記念式典を催し各方面4氏の挨拶がありました。終了後に50周年記念懇親会を16号館1階カフェラウンジ・ルーチェにて60余名参加で交流を深めました。後者は掲載論文に、50年間の紀要・論集の目次と役員名簿の記録等『日本美術教育研究発表会50周年記念クロニクル』を加え、年度内刊行を予定しています。

1. 第50回記念研究発表会は34組42名発表・史上最多110余名参加

第50回記念日本美術教育研究発表会2016を10月16日（日）に実施し、最多110余名が参加しました。当初申込者は37組、学校行事等による3名の辞退があり、55分間モジュール発表4組と25分間口頭発表30組の合計42名による計6時間余の研究発表が、下記の通り実施されました。今回の発表の特徴は、1）韓国、沖縄・佐賀・熊本・大分など九州、広島・兵庫・大阪、関東各地から福島まで、2）60歳代から20歳代の学部4年生まで、3）男性24名57％・女性18名43％、4）国公私立の小・中学校や短大・大学の現職・非常勤教員、院生・学部生、美術教育の非専門一般を含み、理論・実践研究、実践研究報告・研究ノート等の幅広い研究主題が展開されました。発表者のみなさんのご尽力で第50回に相応しい発表会になりました。

第50回記念 日本美術教育研究発表会発表者

	発表会場 A (制度・海外)	発表会場 B (美術教育実践など)	発表会場 C (表現・鑑賞教育など)	発表会場 D (保育・発達)
1	国際美術教育学会誌に見る研究動向 筑波大学 直江 俊雄	美術は3.11とどのように向き合っているかーソーシャル・プラクティスとしてのアートと教育ー 横浜国立大学 大学院 細野 泰久	埼玉を代表する小説家・豊田三郎童話を共同製作版面に 日本版画院 中條 秀憲	
2	戦後の美術科教科書における掲載作品の研究（18） ー美術科教科書研究19年間の総括と2016年の動向ー 前宇都宮大学 山口 喜雄	中学校の美術部活動における作品展についての一考察 ー「アートグランプリin SAKAI」の実践からー 堺市立原西中学校 田中 圭一	きっかけがある画面から描く行為についての考察Ⅱ ーテーマのある活動からー 鶴見大学短期大学部 非常勤講師 山田 佐映子	
3	〔モジュール発表〕 仏領ポリネシアのタヒチにおける美術教育ーTuterai Tane小学校・幼稚園、総合芸術専門学校Conservatoireでの現地調査を通してー 滋賀大学/前宇都宮大学/福島大学 新開伸也/山口喜雄/天形健	〔モジュール発表〕 美術教育実践研究のテーマ創出と方法論に関する研究 東京福祉大学短期大学部/千葉大学 広島大学/東京学芸大学 手塚千尋/佐藤真帆 池田更志/笠原広一	〔モジュール発表〕 「物で遊ぶこと」から「ものをすること」のあいだ ー移行期に見られる子どもの物への関わり方の変化と特徴ー 鶴見大学短期大学部 鮫島 良一	〔モジュール発表〕 図画工作科における創造活動を通して「造形的な視点」の研究
4	美術教育における図形の意味と色彩感情の関係 佐賀市立富士中学校/中村学園大学 姉川明子/姉川正紀	リフレクティブな図工教育をめざして ーリフレクティブプラクティス及び現象学的視点からの授業研究ー 神戸市立義務教育学校港島学園小学部 小田 恵	街頭紙芝居の教育的意義についての一考察 大分大学 大学院 森口 由美	図画工作科における子どもの主体性の研究（1） ー低学年の表現活動についてー 沖縄カトリック小学校 矢澤 聡
5	日本万国博を契機に拓かれた美術教育のコンピテンシー ー国際児童画展、ビクトグラム、パフォーマンス等からー 東京学芸大学 山田 一美	アクティブ・ラーニングにおいて映像メディア表現が拓く場と「対話性」ー地域に根ざすプロジェクト課題（教科教育/図工・美術）の開発と実践を通してー 熊本大学 赤木 恭子	小学校教育における自分への気づき ー絵本作りの授業の提案ー 東京家政大学 4年 斎藤 優美絵	保育者志望生の自律的成長を育むー「壁面構成」における主体的・協働的な学びを通してー 湘北短期大学 非常勤講師 三上 慧
6	英語活動を取り入れた図画工作科の内容言語統合型学習（CLIL）の授業開発 大分大学 藤井 康子	ユーモアを基盤とした造形教育プログラムの構想 東洋大学 北澤 俊之	親子の美術鑑賞の意欲向上をめざす保育環境設定の提案 東京家政大学 4年 官野 綾美	異年齢保育における造形活動からの考察 秋草学園短期大学 小口 偉
7	フィンランドの新カリキュラムにみる教育理念と美術教育の検討 東京家政大学 畑山 未央	鑑賞活動を重視したアクティブ・ラーニングの実践 太田市立南中学校 藤原 秀博	美術を専門としない短大・大学における美術学習の意味 帝京大学短期大学 大貫 真寿美	児童美術展における「子ども審査員」の試行 國學院大学栃木短期大学 非常勤講師/ 真岡青年会議所 名取初穂/伊澤 学
8	日本のODAにおける造形美術教育 ー現職教員派遣の有効性ー 東京学芸大学附属竹早中学校 山田 猛	地域の活性化において造形活動が果たす役割 実践女子大学 山口 真美	韓国の現行美術科教育課程及び教科書における鑑賞教育 春川教育大学校 柳 芝英	子どもの美的体験における比喩的イメージの活用と課題Ⅴ ー感性的材料としての言語についてー 東京家政学院大学 立川 泰史
9	素材論 ーイタリヤ、レゾー・エミリア市の文化的リソースセンター-REMIDAのレポートを通してー 共栄大学・他 非常勤講師 水島 ゆめ	図画工作における育成される能力 ーメディア研究を切り口としてー 東京学芸大学附属小金井小学校 守屋 建	自己表現へ誘う名画鑑賞の指導方法 ー図画工作科における授業実践ー 足立区立青井小学校 黒田 潤子	中学校での外部人材を活用した美術による学びの可能性 ー部活動における大学生との交流活動を通してー 群馬大学 大学院 茂木 克浩

2. 日本美術教育研究論集について

研究論集編集委員会委員長 小 林 貴 史（東京造形大学）

本年度発行を予定しています日本美術教育研究論集第50号では、昨年の研究発表会にて発表された中から28名の方の論文掲載を予定しています。その内訳は、A群（理論・実践研究論文）が10名、B群（実践研究報告）が8名、そしてC群（研究ノート）が10名となっています。ご投稿された方々には、年末年始のお忙しい日程の中、ご協力いただき感謝しております。現在、年度内に皆様のお手元に届くことを目指して編集作業を進めておりますので、どうぞご期待ください。

事務局便り 1

公益社団法人 日本美術教育連合 発行 日本美術教育研究論集 第50号

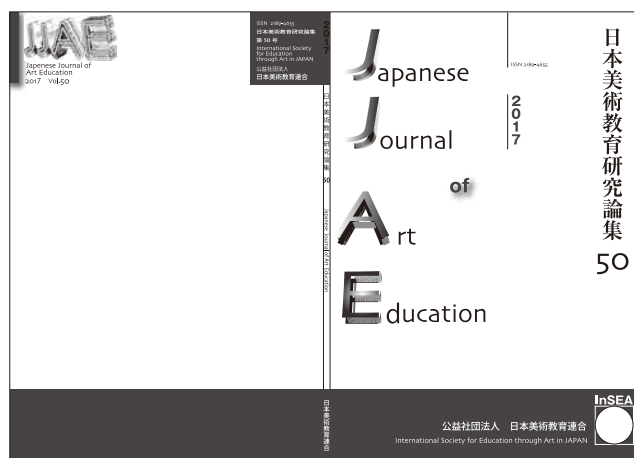
（含む公益社団法人日本美術教育連合50周年記念クロニクル）

2017年3月末日 発行します！

公益社団法人日本美術教育連合では、毎年「日本美術教育研究発表会」を、文部科学省の後援を得て開催しております。この発表会で提案・報告された美術・造形教育に関わる研究・実践の数々が1冊の研究論集となり会員の皆様および関係諸機関に届けられます。それが『日本美術教育研究論集』です。多角的・先進的な研究、日頃の実践に裏打ちされた貴重な報告などが1冊にまとめられた内容の濃い論集です。本年度も昨年度に引き続き、年度末（2017年3月末日）に発行する運びとなりました。

また『日本美術教育研究論集 第50号』では、「日本美術教育研究発表会」50周年を記念して、巻末に、公益社団法人日本美術教育連合50周年記念クロニクル〔chronicle：編年史〕を合本いたします。年度別役員名簿一覧、日本研究発表会開催年月日・会場、年度別論文題目・著者名一覧、「50年を振り返り10年を展望する」と題した役員21名のコラム等を掲載いたします。

会員のみなさま、どうぞ御期待ください！



デザインは若干変更される場合があります。

〈第50回記念日本美術教育研究発表会2016〉の記録

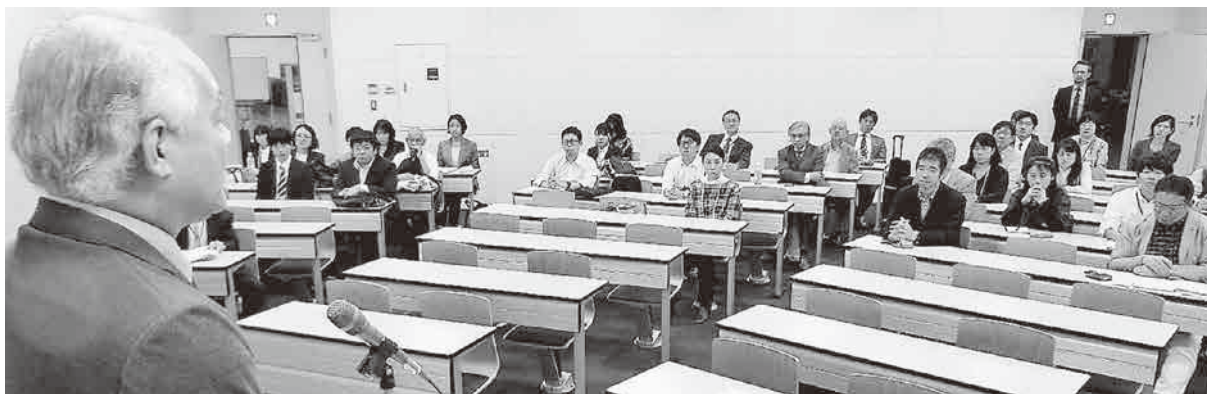
2016年10月16日（日）東京家政大学板橋キャンパス16号館にて、公益社団法人日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）主催の第50回記念日本美術教育研究発表会2016を開催、開会挨拶は大坪圭輔理事長、発表者への諸連絡は小林貴史研究論集編集委員長、閉会挨拶を西村徳行理事が担当しました。



■写真1：2017年8月7～11日の第35回InSEA世界会議大邱大会紹介と参加のよびかけを目的として韓国から2先生が表敬訪問され、昼休みに緊急歓迎会を開催しました。中央左から挨拶する大坪圭輔理事長、2人め大邱大会役員で清州大学教育学部美術教育学科の姜（Kang）准教授、右が弘益大学教育学部美術教育学科の高（Koh）准教授、3人めは研究発表を行った春川教育大学校の柳（Ryu）教授。



■写真2左：記念式典で挨拶する日本教育大学協会全国美術部門の新関伸也副代表。
中：海外業務で不在のため、美術科教育学会の水島尚喜代表理事の挨拶を代読する北澤俊之監事。
右：仲瀬律久実行委員長（当時）が1998年InSEAアジア地区会議東京大会の意義を熱く語りました。



■写真3：50周年記念式典で挨拶する全国造形教育連盟の天形健副委員長。開会の辞は小林貴史研究論集編集委員長、本美術教育連合を代表して大坪圭輔理事長が挨拶、閉会の辞を林耕史運営委員、司会は山口喜雄理事が担当しました。



■写真4：60余名参加の50周年記念懇親会で挨拶する宮坂元裕前理事長。開会の辞は長田謙一運営委員、東京家政大学の川合貞子学長の来賓挨拶を畑山未央事務局員が代読、開催大学の結城孝雄理事が挨拶、榎原弘二郎運営委員が乾杯の音頭、後方には寄贈されたワイン・清酒・洋酒が15本並び、それらの全寄贈者が多彩な祝辞、参加者は楽しく歓談、閉会の辞は山田一美運営委員が担当。会場は同大学提供、藤井康子局員や会員多数とサポート学生の協力を得て設営、2500円会費で畑山未央局員が準備した料理等が好評、盛大な祝賀懇親会になりました。



■写真5：懇親会参加の全女性が整列して一人ずつ挨拶を行い、大坪主輔理事長から中央手前の佐藤真帆国際局員が2016年9月にInSEAアジア地区評議員（定員3）に選出されたと披露されました。



■写真6：懇親会参加者全員に東京美工堂の吉川親助社長（当時）が特注寄贈した1998年InSEAアジア地区会議東京大会記念徽章が配布されました。遠方からの参加者多数が帰路に就いた後で恐縮でしたが、最後に48人集合写真が笑顔で撮れました。写真は天形健運営委員と山口喜雄理事（本記録編集）が担当しました。

造形・美術教育力養成講座 第3期1次目

「海外美術教育ワークショップ ―明日の授業が変わる―」 連続講座を終了して

事業局長 水 島 尚 喜

平成28年8月22日（月）、23日（火）の両日にわたって開催された連合主催の連続講座「造形・美術教育力養成講座 ―海外美術教育ワークショップ―（第3期、全8回）」が、恙無く終了しました。以下に、終了後に実施した「参加者全員アンケート」の結果をもとに報告いたします。

本年度は、渋谷区広尾に所在する聖心女子大学を会場として連続講座が開催されました。会場の交通アクセスが便利なこともあり、会場につきましては高評価でした。

総参加者数は20名で、昨年とほぼ同様ですが、85講座分の受講がありました。昨年は、61講座でしたので、一人当たりの受講数が増えていることになります（40%の増加）。1次目ですが、すでに全8回の講座を満了した方が、5名となりました。今回の講座内容は海外の美術教育にかかわるもので、当初は参加者があまり見込めないのでは、との危惧もありましたが、実際には適正な参加者数に恵まれました。熱心に受講下さいました参加者の方々に、心より御礼もうしあげます。

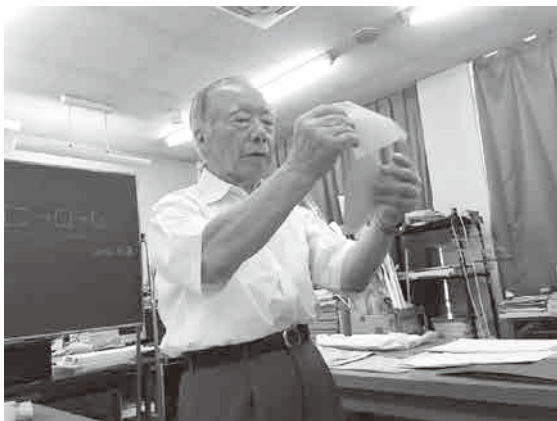
講座内容に対しては、肯定的意見が大半で、充実した学びへ感謝の言葉を多く耳にしました。課題としては、レジュメの充実（テキストの作成）や、講座内容をもとに情報交換したり講師の方との交流の場を設定してほしいとの声がありました。

開催時期については全員の方が、妥当とのご意見でした。お盆明けのこの時期しかないという判断です。ただし、地域（特に北日本）によっては学校が始まっている場合もあるので、やはり再検討の必要性もあります。今年は、韓国でのInSEA大邱大会が予定されているので（8月8日～11日）、種々の状況を見据えながら、開催時期を検討したいと思います。

参加者の大半は、小中高の先生方でした。今回は、特に小学校教員の方が多く参加されました。副題に「授業」が入っていたためかどうかは不明ですが、例年多く参加されていた美術館学芸員ボランティアの方々がいらっしゃいませんでした。その他には、大学講師・助教、画塾講師、大学院生の方たちのご参加がありました。

今後の講座内容への希望としては、以下の内容（キーワード）がありました。これからの事業計画に、反映させたいと思います。

「アジアの美術教育」、「小中連携」、「領域横断」、「障害児教育」、「問題行動」「新学習指導要領」、「ドイツの美術教育」、「アートセラピー」、「幼児造形」、「学習評価」、「横断的思考力」など



仲瀬律久先生 紙を折る「ロケットの応用作品」



大坪圭輔理事長から「講座修了証」の授与

造形・美術教育フォーラム

中教審答申を読む ― 美術教育連絡協議会提言書 ― 報告



1月22日（日）、14：00より16：30の2時間半に渡って、造形・美術教育フォーラム「中教審答申を読む―美術教育連絡協議会提言書―」を武蔵野美術大学新宿サテライトにて開催いたしました。お招きした小野康男先生（大学美術教育学会理事長、横浜国立大学副学長、同大学院教育学研究科教授）、大橋功先生（日本美術教育学会事務局長、岡山大学大学院教育学研究科教授）お二人に対して、司会役の大坪圭輔理事長が質問をする形で進行し、約60名の参加者と共に、これからの造形美術教育の在り方を『中教審答申』と美術教育連絡協議会『美術教育提言』をベースにして考える密度の濃い時間となりました。

まず司会より今回のフォーラムの趣旨説明を行い、（公社）日本美術教育連合、全国造形教育連盟、全国大学造形美術教育教員養成協議会、大学美術教育学会、日本教育大学協会全国美術部門、日本教育美術連盟、日本美術教育学会、美術科教育学会で組織する美術教育連絡協議会が、平成28年10月20日に文部科学省に提出した『美術教育提言』の代表であり本文のまとめ役が小野康男先生であること、また、新しい3観点（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）を基に、図画工作・美術科で育てるべき資質能力を整理するマトリックスを作成されたのが大橋功先生であるとの紹介がありました。そして、本フォーラムはこのお二人の先生からの提言を頼りに、『中教審答申』を読み解き3月末に予定されている新学習指導要領の告示を受け止める我々の土台を耕しておきたいという趣旨が述べられました。

最初に、昨年12月21日に出された『中教審答申』全体について小野先生からは、「今回の答申は2040年～60年あたりの社会の中核となる人材を育てる教育が想定されている。これまでの理想像的な答申よりも、第4次産業革命に対する教育を具体化していこうとする姿勢を読み取ることができるが、その将来像や狭い言語観など不安要素も多い。」とのお話がありました。また、大橋先生からは「過去の学習指導要領改訂からも言えることだが、何ができるようになるのか、何を学ぶのか、という視点については大きな変化はない。しかし、今回の答申ではどのように学ぶのか、すなわち学習活動の質が問われている。」との指摘がなされました。さらに小野先生からは「正解がひとつではない学習の指導

は美術がやってきたことではないか。」、大橋先生からは「我々は眼に見える形で美術が育む能力を示してきたのか。」との指摘もありました。

次に、『美術教育提言』について小野先生は、まず「評価基準を作ることがこれからますます重要になる。」との前置きがあり、「提言書では、現行の学習指導要領下でも美術教育は今回の改定が目指す方向性をすでに実施しているとの自負を示している。また、身体的な体験と言葉との関係の重要性とともに、図工や美術の学びは単に純粋美術に関わるだけでなく、テクノロジーそしてイノベーションへとつながり、他教科においても基盤となる創造のための基本的な態度を育成している。その根本には欲望とも言える情操がある。」と解説されました。一方、マトリックスを担当された大橋先生からは、「このマトリックスは、横に新三観点、縦に現在の四観点を基にした造形活動を分類している。この中で我々が育てていくべき資質や能力を明らかにしていく指針を示そうとしたものである。学びに向かう力の解釈や幼稚園から高等学校までを通して育てる汎用的な能力などまだ議論すべき要素はある。また、事例の部分は、各能力を育てるために図工美術ではこのような授業が可能であるとの一例を示している。」とのお話があり、「今回の三観点では表現と鑑賞という枠はなくなるが、学習内容としては表現と鑑賞は残ると思われる。」と補足されました。さらに、『中教審答申』と『美術教育提言』の比較から、小野先生は「思考力・判断力・表現力の中でも、判断力の育成が重要である。そして、グローバル化対応を考えるならば、異なるものをつなぐ芸術の教育が求められる。」、大橋先生は「この授業を通して、何を学びどのような資質能力を伸ばしたのか教師も子どもも自覚できることが必要である。」と述べられました。

ここで参加者からの質問や意見による質疑に移りました。まず、参加者から、美術において個を育てる教育という問題は教科だけではなく学校全体の問題ではないかとの意見があり、大橋先生からは「図工美術は協働と自律の教育を先行してやってきた、学校の中で図工美術の教師が発言しやすい答申であるとも言える。」とのお話がありました。また、小野先生は「教員養成において、カリキュラムマネジメントの視点から自分の教科と他教科のかかわりを学ぶ必要がある。」と述べられました。さらに、他の参加者からは、総合的な学習の失敗をみるとアクティブラーニングの実現には課題が多いとのお話があり、それに続いて、成長をどう考えるのか、答申の資料を見ると高校から小学校・幼稚園の順番で目標が示されているという危うさがあるとの指摘がありました。これらを受けて、小野先生は「周りとの分離が成長であり、象徴化の能力の一つとして言語化の能力がある。生きている概念を持ち、社会に向けて分離する力を育むところが学校である。また、生きる力をより具体化したのが今回の答申である。」、大橋先生からは「カリキュラムマネジメントの失敗が総合的な学習の失敗である。答申には教科の繋がり、地域の教育力の反映などが示されている。しかし、学力調査対応でカリキュラムマネジメントどころではない現実もある。学校全体でどんな子どもを育てるのかという視点が求められる。」などの示唆がありました。続いて参加者から、目標の文言が数倍に増えるということは教育の内容がそれだけ複雑化することであるとの意見や、これからの研究においてエビデンスをどのように示せばよいのか質問がありました。これらについて小野、大橋先生からは、哲学におけるエビデンスと科学技術のエビデンスは違うこと、今回のマトリックスをきっかけに各研究会でブラッシュアップ

プしてほしい、そしてそのことで図工美術の必要性が他の人にも見えてくることが語られました。

最後に、今後我々がやるべきこととして、小野先生からは「不定形なものを評価するときループリッ
クは適している。また、それは現場の授業を理論化し高度化していくことでもある。学会全体を見渡
すと包括的な理論研究がいささか不活発なところが心配である。」とのお話があり、大橋先生からは「現
在の学習指導要領の中でやってきたことを見直し、これをブラッシュアップすることが次の学習指導
要領につながる。何を教え、何を指導しているかきちんとと言えるようにすること、そして表現の自由
のためには自身の思いを形にするための力を保障することが重要であり、そこに知識や技術、技は必
要である。目と手と心の連動、その指導の在り方についての研究の必要性が課題であり、人間が自由
になるための教育、子どもに自由を保障できる教育を目指したい。」との力強い示唆を頂きました。

司会者からはこのフォーラムに連動して、4月23日の連合総会講演会では、新学習指導要領告示直
後に岡田京子、東良雅人両教科調査官をお招きし、講演をお願いする旨報告があり、閉会となりました。

なお、今回のフォーラムの基本資料である中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学
校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』は、文部科学省ホームペ
ージで公開されています。また、平成28年10月20日に文部科学省に提出した美術教育連絡協議会による
『美術教育提言』及び平成27年6月30日に同協議会が提出した『美術教育の充実に向けての要望書』は、
連合ホームページ (<http://insea-in-japan.or.jp/>) で公開中です。



■第35回InSEA（国際美術教育学会）世界会議 2017 大邱大会

□期 日 8月7日（月）～11日（金）

□会場 大邱国際展示会議場 Exhibition and Convention Center

□大会テーマ Spirit ∞ Art ∞ Digital

□参加 登録 大会ホームページより <http://insea2017.org/>

発表者の早期参加登録〆切 3月31日 ※発表の申し込みは締め切られています。

一般参加者の早期登録締め切り 6月30日

□日 程

	8月7日(月)	8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)	8月11日(金)
午前	ブレ ワークショップ	基調講演 3・4	基調講演 5・6	基調講演 7・8	基調講演 9・10
9:00 13:00		研究発表 1	研究発表 4	研究発表 7	研究発表 10
昼	開会式	ランチ ポスター発表	ランチ ポスター発表	ランチ ポスター発表	閉会式
午後		研究発表 2	研究発表 5	研究発表 8	文化ツアー
14:30 18:50	基調講演 1・2	研究発表 3	研究発表 6	研究発表 9	
夕刻	歓迎レセプション			晩餐会	

公益社団法人日本美術教育連合 平成28年度 第3回理事会議事録

1. 招集通知 平成28年8月6日（土）
2. 開催日時 平成28年8月28日（日）午前11時00分～12時15分
3. 開催場所 東京家政大学
4. 出席理事の氏名 大坪圭輔 西村德行 山口喜雄
5. 委任状による出席理事の氏名 水島尚喜 結城孝雄
6. 出席した監事の氏名 北澤俊之 宮坂元裕
7. 定款の規定に従い大坪圭輔代表理事（理事長）が議長に就任し、出席の状況及び委任状を確認し、全員出席であることを確認した。また、議案の関係上、林耕史事務局運営委員と畑山未央事務局員が同席する旨確認をした。次に第2回理事会の議事録を確認し、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 平成28年度第50回記念日本美術教育研究発表会について

山口喜雄理事より別紙資料を基に、10月16日開催予定の平成28年度第50回記念日本美術教育研究発表会運営に関する研究局案が提示され、慎重審議の結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。尚、第50回を記念し『日本美術教育研究論集第50号』に「50周年記念クロニクル」を加え、記念の懇親会を開催することも了承された。

第2号議案 平成28年度造形美術教育力養成講座実施報告について

担当の水島尚喜理事を代行して、大坪圭輔代表理事より口頭にて、8月22日、同23日に実施された平成28年度造形美術教育力養成講座の参加人数や講座の状況について報告があり、第2号議案は全員一致をもって承認された。尚、後日水島理事より詳細が書面にて報告されることを確認した。

第3号議案 日本美術教育連合ニュースNo.148の編集について

大坪圭輔代表理事より別紙資料を基に、日本美術教育連合ニュースNo.148編集案が提示され、慎重審議の結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

第4号議案 ホームページの更新と担当者の委嘱について

大坪圭輔代表理事より口頭にて、本法人のホームページ改編に向けて北川智久事務局運営委員をホームページ担当者として委嘱する案が提示され、慎重審議の結果、第4号議案は全員一致をもって可決決定された。

第5号議案 研究局員及び事業局員の委嘱について

大坪圭輔代表理事より別紙資料を基に、研究局員として立川泰史氏と藤井康子氏を、事業局員として直井崇氏を委嘱する案が提示され、慎重審議の結果、第5号議案は全員一致をもって可決決定された。

報告事項1 内閣府関係事項について

西村德行理事より口頭にて、内閣府に対して事業報告等の提出が完了した旨報告があっ

た。

報告事項２ 後援名義について

西村德行理事より口頭にて、公益社団法人発明協会主催「第39回未来の科学の夢絵画展」及び公益財団法人美育文化協会主催「第47回世界児童画展」の後援名義の申請があり、これを承認した旨報告があった。

報告事項３ InSEA世界会議大邱大会について

大坪圭輔代表理事より別紙資料を基に、2017年8月7日～11日開催予定のInSEA世界会議大邱大会の発表及び登録期間、登録費用などについて報告があった。

報告事項４ 美術教育連絡協議会提言書作成状況について

大坪圭輔代表理事より別紙資料を基に、新学習指導要領に関する文部科学省への美術教育連絡協議会提言書の作成状況について報告があった。

報告事項５ 造形・美術教育フォーラムについて

大坪圭輔代表理事より口頭にて、中央教育審議会答申が12月末になされることを受け、時局にふさわしいフォーラムの内容が必要との理由から、12月4日開催を計画している造形・美術教育フォーラムを1月22日に変更する旨報告があった。なお、テーマは「中央教育審議会答申を読む」、場所は武蔵野美術大学新宿サテライトとなった。

報告事項６ その他

①「期」について確認

大坪圭輔代表理事より別紙資料を基に、本法人は定款の定める理事任期2年を以て1期とする旨確認があった。

②メールアドレスの蓄積について

大坪圭輔代表理事より口頭にて、今後会員のみならず各事業への一般参加者のメールアドレスを蓄積し、広報活動に生かすべきとの説明があった。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は閉会の挨拶を述べ、午後12時15分散会した。

公益社団法人日本美術教育連合 平成28年度 第4回理事会議事録

1. 招集通知 平成28年11月9日（水）
2. 開催日時 平成28年11月20日（日）午前11時00分～12時00分
3. 開催場所 東京家政大学
4. 出席理事の氏名 大坪圭輔 西村德行 水島尚樹 山口喜雄
5. 委任状による出席理事の氏名 結城孝雄
6. 出席した監事の氏名 北澤俊之 宮坂元裕
7. 定款の規定に従い大坪圭輔代表理事（理事長）が議長に就任し、出席の状況及び委任状を確認し、全員出席であることを確認した。また、議案の関係上、林耕史事務局運営委員と畑山未央事務局員が同席する旨確認をした。次に第3回理事会の議事録を確認し、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 平成28年度第50回記念日本美術教育研究発表会の反省について

担当の山口喜雄理事より、10月16日に東京家政大学を会場として開催された平成28年度第50回記念日本美術教育研究発表会の運営に関する報告がなされ、畑山未央事務局員より、会計の報告がなされた。主たる内容は下記のようなものである。

- ・110余名の参加者があり、充実した内容の研究発表会であった。
- ・会場の準備や各種手配及びサポート学生の機敏な活動など、多くの支援によって運営を順調に進めことができた。
- ・発表辞退者が3名あったことは、これから留意する必要がある。
- ・昼休みにInSEA世界会議大邱大会の役員である清州大学教育学部美術教育学科の姜准教授と弘益大学教育学部美術教育学科の高准教授より同大会の紹介があり、多くの参加者があった。
- ・懇親会には60余名の参加があり、盛大に50周年の祝賀行事を挙行できた。

以上の報告を受け、第1号議案は全員一致をもって承認された。

第2号議案 論文審査及び論集の編集について

担当の山口喜雄理事より、口頭にて論文の集まり状況についての報告と本日午後の役員会終了後論集編集委員会が開催される旨連絡があり、第2号議案は全員一致をもって承認された。

第3号議案 造形・美術教育フォーラムについて

大坪圭輔代表理事より別紙資料を基に、1月22日開催予定の造形・美術教育フォーラム「中教審答申を読む—美術教育連絡協議会提言書」に、美術教育連絡協議会提言書作成の中心メンバーである小野康男横浜国立大学副学長及び大橋功岡山大学教授を招聘し、大坪圭輔代表理事の司会でシンポジウムを行う旨提案があり、慎重審議の結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

第4号議案 連合ホームページのリニューアルについて

大坪圭輔代表理事より、ホームページ担当の北川智久事務局運営委員の調整によって新アドレスのホームページが公開されたことの報告があり、実際の映像が提示された。今後、内容の精選充実とともに、英語表記及びセキュリティーの強化が課題である旨を確認し、慎重審議の結果、第4号議案は全員一致をもって可決決定された。

第5号議案 InSEA世界会議大邱大会について

国際局担当の大坪圭輔代表理事より別紙資料を基に、テグ大会参加ツアーの企画は諸般の事情によって断念するものの、広報活動は一層強化する旨の提案があり、慎重審議の結果、第5号議案は全員一致をもって可決決定された。

第6号議案 新入会員について

新入会希望者5名の資料が回覧され、慎重審議の結果、下記5名の入会が全員一致をもって可決決定された。

新入会員 佐々木敏幸 箕輪佳奈恵 照沼晃子 北尾由紀子 八木幸大

報告事項1 美術教育連絡協議会提言書について

大坪圭輔代表理事より口頭にて、10月20日付で「美術教育提言」が美術教育連絡協議会によって、文部科学大臣及び中央教育審議会関係者に対して提出された旨報告があった。なお、同提言書はホームページに掲載公開中である。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は閉会の挨拶を述べ、午後12時00分散会した。

公益社団法人日本美術教育連合 平成28年度 第5回理事会議事録

1. 招集通知 平成28年11月21日（月）
2. 開催日時 平成28年12月4日（日）午前11時00分～12時00分
3. 開催場所 東京家政大学
4. 出席理事の氏名 大坪圭輔 西村德行 山口喜雄
5. 委任状による出席理事の氏名 水島尚喜 結城孝雄
6. 出席した監事の氏名 北澤俊之 宮坂元裕
7. 定款の規定に従い大坪圭輔代表理事（理事長）が議長に就任し、出席の状況及び委任状を確認し、全員出席であることを確認した。また、議案の関係上、林耕史事務局運営委員と畑山未央事務局員が同席する旨確認をした。次に第4回理事会の議事録を確認し、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 入会審査について

新入会希望者1名の資料が回覧され、慎重審議の結果、下記の入会が全員一致をもって可決決定された。

新入会員 田中千賀子

第2号議案 造形・美術教育フォーラム細案について

1月22日開催予定の造形・美術教育フォーラム「中教審答申を読む―美術教育連絡協議会提言書」の詳細について、別紙案内を基に大坪代表理事より説明があり、慎重審議の結果、第2号議案は全員一致をもって承認された。

第3号議案 連合ニュースNo.149企画について

連合ニュースNo.149に掲載すべき主な内容についての検討が行われ、下記の項目が確認されるとともに、大坪代表理事より役員会において担当の北川智久事務局委員より細案が提出されることが提案され、慎重審議の結果、第3号議案は全員一致をもって承認された。

掲載すべき主な内容 平成29年度定時総会案内

第50回記念教育研究発表会報

造形・美術教育フォーラム報告

第4号議案 発明協会主催 第39回未来の科学の夢絵画展 審査委員派遣について

大坪代表理事より、別紙「公益財団法人発明協会主催 第39回未来の科学の夢絵画展審査員派遣依頼」が提示され、慎重審議の結果、山口理事を派遣することが全員一致をもって可決決定された。

報告事項1 論集編集委員会について

担当の山口理事より、本日13時30分からの役員会終了後、論集編集委員会を開催すること及び査読日程についての検討が必要な旨報告があった。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は次回第6回理事会を平成29年1月22日10時00分より、武蔵野美術大学新宿サテライトにて開催することを確認するとともに、閉会の挨拶を述べ、午後12時00分散会した。

事務局便り 2

■平成28年度（2016年度）会費納入、ご協力ありがとうございます。

昨年8月の本連合主催の造形・美術教育力養成講座、10月の「第50回日本美術教育研究発表会」、本年1月に武蔵野美術大学新宿サテライトでおこなわれた造形・美術教育フォーラム等の開催により、それぞれ大きな成果をあげることができました。

本年度も、会員の皆様のご理解とご協力を多く受けることができ、会費の納入状況が改善されました。しかしながら、まだ納入いただいていない会員もいらっしゃいます。是非、ご入金の協力をお願いします。3年連続会費未納入の会員は「退会」という対応をいたします。皆様の会費によって本連合は成立しております。何卒、ご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。

未納の方は！

平成28年度会費 **6,000円** を納入してください。

(公社) 日本美術教育連合 郵便振替 00170-1-86036

* 納入期限：平成29年3月11日（土）（本年度会計を閉めます）

■お問い合わせ先：事務局 事務局 西村 徳行

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学

芸術・スポーツ科学系 美術・書道講座 美術科教育学分野

TEL+FAX 042-329-7608（西村研究室直通）

E-mail: nishimur@u-gakugei.ac.jp

【郵便振替】(公社) 日本美術教育連合 口座番号 00170-1-86036

■平成29年度 定時総会 予告■

巻頭ページでもご案内いたしましたように、第7回定時総会を平成29年4月23日（日）に開催いたします。多数ご出席いただきますよう、宜しくお願いいたします。

■日 時 平成29年4月23日（日）13：30～14：30

■場 所 聖心女子大学 宮代ホール

東京都渋谷区広尾4-3-1（東京メトロ日比谷線広尾駅より徒歩5分）

■記念講演 予告■

定時総会終了後、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、岡田京子先生と東良雅人先生のご講演があります。記念講演は入場無料で、どなたでも参加いただけます。

■日 時 平成29年4月23日（日）15：00～16：30

■場 所 聖心女子大学 宮代ホール

■記念講演演題 「新学習指導要領とこれからの図画工作科、美術科」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 岡田京子先生

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 東良雅人先生